

◆ 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

むかし、唐の絵かきに、戴崇といふあり。牛をえものにてかくこと上手なり。ある時角をふり、尾をたてて、牛どものたたかふをかく。一しほうはしくいできたりと思ひて人々に見せあへり。その後牛つかふ小童の野がひにいでたるにこの絵を見せ、「汝が朝夕つかふ牛によく似たるか。」といひて問ひし時、牛かふ小童、これをみて笑ふ。「いかにとなれば、牛のたたかふ時は、尾をたてずして、はらに尾をつくるものなり。この絵は、尾をたてたれば、あやまりなり。」^④といひし。戴崇おどろき、げにもと感₅じ、その絵をやぶりたり。まことに名人は、何事によらず戴崇のごとくありたきものなり。戴崇ほどの牛かきなれども、まことの牛に手なれぬ事なれば、あやまりもあるらんと、朝夕なる牛飼ひの小童に見せたるは、名人の戴崇なればこそ。

(注) えもの…最も得意とする物事。

一しほ…ひときわ。

小童…子ども。

野がひ…野に放し飼いにすること。

げにも…なるほど。

あやまりもあるらん…まちがいがあろうか。

(中川喜雲「私可多咄」より)

- (1) 線 a ~ c を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。
- (2) 線①「思ひて」、④「つくる」、⑥「いひし」の主語を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア 小童 イ 戴崇 ウ 筆者 エ 人々 オ 牛
- (3) 線②「汝が朝夕つかふ牛によく似たるか」と聞いた時の戴崇の気持ちを筆者が想像して述べている部分を、古文中から二十五字以内で探し、初めと終わりを四字ずつ書きぬきなさい。
- (4) 線③「笑ふ」とありますが、どう言う代わりに笑ったのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア どうして心配するのですか。 イ 牛はこのようにはしませんよ。
ウ 牛には見えない、へたな絵ですね。 エ 本物そっくりにかけていますね。
- (5) 線⑤「あやまりなり」とありますが、どのような点が誤りのですか。次の [A]・[B] に入る言葉を現代語で A は十二字以内、B は五字以内で書きなさい。
・戦う時、実際の牛は [A] ものだが、この絵の牛は [B] いる点。
- (6) 線⑦「戴崇のごとくありたきものなり」とありますが、筆者は戴崇のどのような点をよいと考えていますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア すばらしい技術を出し惜しみしない点。 イ 自分の見方を信じぬく点。
ウ 自分の技量に誇りを持っている点。 エ 自分の誤りを謙虚に受け入れる点。

(5)	(4)	(2)	(1)
B		①	a
	(5)		
	A	④	b
		⑥	
		(3)	
(6)			c

(1) 5点×3 (2)・(4) 5点×7 (3) 15点 (3)は完答